



沼田市りんご組合

「雪んこりんご」春まで雪下で貯蔵

沼田市りんご組合は1月15日、玉原高原で雪の中にリンゴを埋め込む作業を行いました。同組合の組合員11軒が参加し、昨年11月から12月に収穫した「ふじ」を中心に626コンテナ（約2万5千個）を春まで貯蔵するために埋め込みました。

同作業は今回で35回目。雪の中は温度と湿度が一定となるため、シャキシャキとした食感が保たれます。酸味が抜けて甘みが増すため、春になっても、もぎたてのような新鮮なリンゴを味わえます。

雪に埋めたリンゴはゴールデンウィーク前に掘り出し、「雪んこりんご」として予約販売や各農家の直売所、道の駅、JA直売所などで販売する予定です。



「雪んこりんご」を埋める組合員

第42回群馬県いちご立毛共進会

県内でイチゴの出来栄え競う

群馬県園芸協会は12月24日、25日、1月15日の3日間で、第42回群馬県いちご立毛共進会の現地調査を行いました。

利根沼田地区では1月15日に現地調査が実施され、利根沼田苺部会より保坂貴仁さんと山口千代子さんが参加しました。審査では生育や着果状況、品質、病虫害、ほ場管理などを確認します。

各地の審査状況を取りまとめた結果、保坂さんが銀賞（全国農業協同組合連合会群馬県本部運営委員会会長賞）を受賞。山口さんが銀賞（群馬県農業共済組合会長賞）に選ばれました。

保坂さんの圃場



山口さんの圃場にて審査を行う担当者

ファミマJA利根沼田月夜野店産直部会

園児たちに甘いリンゴをプレゼント

ファミリーマートJA利根沼田月夜野店産直部会は12月18日、つきよのこども園の2～5歳の園児153人に、リンゴ「ふじ」50個を提供しました。

提供したリンゴは、同部会の高橋和幸部会長が園主の「まるよしりんご園」で収穫されたもので、園児たちは「美味しい」「甘い」「シャキシャキしてる」と笑顔でリンゴを頬張りました。

給食の準備が始まる前には高橋部会長が3～5歳の園児たちにむけて、食育やリンゴについて話をしました。「食事のときの挨拶がとても大切だ

リンゴを頬張る園児



園児たちにむけて話を
する高橋部会長



と考えている。あとは『いただきます』の前や『ごちそうさま』の後に、『美味しそう』『美味しかった』の感想を、ぜひ声に出してほしい』と呼びかけると、園児たちは元気よく返事をしました。